

城山校区社会福祉協議会行動計画【概要版】

笑顔と思ひやりあふれるみんなが集うまち「城山」

高齢者

福祉課題

- 一人暮らしや認知症の高齢者が増加している
- 認知症の方やその家族が集まる場所が少ない
- 「ふれあい・いきいきサロン」への参加が増えない
- 歩ける範囲に店がない、歩いて行けても荷物をもって歩けない

具体的な取り組み

- 認知症への理解を深めるため学習会を開催、オレンジカフェに協力する
- 「ふれあい・いきいきサロン」の充実を図る
- 移動販売や配達業者への協力依頼、乗り合いタクシーを検討する

子ども子育て

福祉課題

- 交通量の増加に伴い登下校の危険性が高くなった
- 世代間交流や子どもが参加できるイベントが少ない

具体的な取り組み

- 自治会や交通安全協会及び地域住民による登下校時の見守りを行う
- 小学生を対象とした伝承遊び、公園清掃活動、危険箇所探しのイベントを開催する

暮らし

福祉課題

- 高齢者や若年層の健康診断受診者が少ない
- 地域役員の担い手、地域行事の人材が不足している
- 若い世代の交流の場が少ない、住民同士のつながりが希薄化している

具体的な取り組み

- 健康づくり・体力づくりのイベントや健康・医療に関する講演会を開催する
- 誰にでもできる事を当番制にし、人材を確保、お互い様の精神を根付かせる
- 町内ごとのイベントを校区で開催し住民交流を図る

災害

福祉課題

- 災害時要援護者名簿が活用しにくい
- 災害時の情報共有、伝達が十分でない
- 危険箇所の確認、周知が十分でない

具体的な取り組み

- 災害時要援護者名簿を整理し、情報を共有する
- 平常時から情報伝達の役割分担を確認しておく
- 町内ごとの防災訓練の実施、災害時の避難方法を周知する

城山校区社会福祉協議会行動計画

- ◎「居場所づくり」を通して見守り、孤独解消を図る
- ◎認知症への理解を深め、地域で支え合う
- ◎子どもの見守りを通して、世代間交流を図る
- ◎交流事業を通して、子育てに協力し合える関係を築く
- ◎住民の健康維持・向上を目指す
- ◎暮らしやすい、住みよい環境を整える
- ◎住民同士の交流を図り人材の確保に努める
- ◎災害時要援護避難支援制度の登録者の情報を共有し、災害時に活用出来るよう整備する
- ◎町内ごとのハザードマップをつくり、避難経路や避難場所を明確にする